

編集後記

『一橋大学スポーツ研究』は第41巻目の発行となった。

パンデミックの影響も徐々に落ち着きが見られ、学会や研究会なども多くは対面での開催に戻つつある。他方で、ハイブリッド方式など、オンライン開催の利便性を取り入れることによって、遠方からの出席や海外のスピーカーの招待をより気軽に行えるなど、様々な可能性も広がっている。パンデミックに限らず、環境が変化する中で、アカデミックの現場もそれに伴い変化を迫られるが、研究成果の公開の方法についても、デジタル化や新しいプラットフォームの開拓など、遅まきながら新しい局面に来ていることを実感している。近年の大学を巡る国際的競争力の強化の圧力は、特に大きな理由であろう。

そのような中で、本誌の位置づけについても、これまでとは異なる視点で議論することがますます必要になってきていると思われる。本誌は、従来、本学専任／非常勤スタッフの研究活動の記録を中心的な役割としつつ、最近では院生の投稿にも門戸を広げてきた。2021年度に新たに一橋スポーツ科学研究会を立ち上げたが、その理由は、スポーツ科学研究室のある種のプラットフォームとしつつ、関わる多様なひとびとのネットワークを形成することが、スポーツ研究の新たなステージへと結びつくと考えたからである。本誌は、その活動の成果を発信する役割の一端を担うものへと変化を遂げつつある。

それは、一橋スポーツ科学研究会の会員、中嶋哲也氏の投稿論文にも示されている（中嶋氏の論文は、ご本人の申し出により、専任スタッフによる査読を経て掲載されたものである）。また、2つのゲスト研究会の成果も収録されている。今後は、一橋スポーツ科学研究会での報告の論文化だけでなく、本誌自体の運営、活用を含めた議論により多くのひとびとを巻き込んでいけないだろうかと考えている。本号の内容はもちろん、この点についても、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

（坂 なつこ）

一橋大学 スポーツ研究

Vol. 41

スポーツのダイバシティとダイナミズム

2024年3月31日 発行

編集・発行 一橋大学スポーツ科学研究室

〒186-8601 東京都国立市中2-1

TEL 042-580-8270

<https://sport.soc.hit-u.ac.jp/>
